

## 指導と評価の年間計画（音楽Ⅰ）

岐阜県立土岐紅陵高等学校

科目	音楽Ⅰ	学年	1年	指導クラス	1, 2, 3組		
単位数	2	使用教科書	音楽Ⅰ Tutti+（教育出版）		副教材・問題集等		

### 1. 科目の目標

#### 芸術科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### 音楽Ⅰの目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽・音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### 2. 評価の観点の趣旨

知識・技能（技術） a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組み態度 c
<b>【知識】</b> ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わり、言葉の特性と曲種に応じた表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。 <b>【技能】</b> ・曲にふさわしい発声、身体の使い方、楽器演奏の技能を身に付け、歌唱、楽器で表している。	・音程、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うか、あるいは楽器演奏するかについて思いや意図をもっている。 ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現について考えている。	・歌詞の抑揚、アクセント、リズムなどの言葉の特性を感じ取り、自己のイメージをもって旋律を作ることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組みようとしている。 ・各楽器の奏法を身に付けることや、技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながら、学習活動に取り組みようとしている。

### 3. 指導及び評価計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 ・ 5	ギター	・基本的な持ち方、チューニングの方法を確認する。 ・様々な奏法を身に付ける。	14	・正しい持ち方、左手の押さえ方を学習する。 ・C durの音階と派生音を学習する。 ・セーハで演奏する技術を高める。 ・年間を通して、リズム学習を取り入れる。	・アンケート ・進行表（チェック表） ・観察	○		○
		・楽器の特徴や奏法違い、楽曲に相応しい美しい音色を表現する。		・コード進行に合わせて、左手を学習する。 ・右手の指を駆使して、いろんな奏法にチャレンジする。 ・主体的に選曲し、弾き歌いを学習する。 ・年間を通して、文部省唱歌を取り入れる。	・実技テスト ・観察	○	○	○
6 ・ 7 ・ 8	三線	・基本的な持ち方、チューニングの方法を会得する。 ・基本的な奏法を身に付ける。	20	・三種類の奏法を学習する。 ・琉球音階を理解し、三線譜の読み方を学習する。	・進行表（チェック表） ・観察	○		○
		・楽器の特徴や奏法違い、楽曲に相応しい美しい音色を表現する。		・琉球音階の曲を知り、その曲想を理解する。 ・左手を使った奏法を身に付ける。 ・沖縄の歴史や文化を学習し、主体性をもって演奏する。	・実技テスト ・観察	○	○	○
9 ・ # ・ #	キーボード	・基本的な指使いを確認する。 ・キーの操作方法を会得する。 ・基本的な音階、リズムを身に付ける。	24	・キーボードの操作方法を確認する。 ・カノン形式を理解し、2人で合奏する。 ・音色・テンポ・伴奏を加えて、編曲を学習する。	・進行表（チェック表） ・観察	○		○
		・楽器の特徴や奏法違い、楽曲に相応しい美しい音色を表現する。		・2人以上で合奏する場合に、タイミングの取り方やテンポの取り方、バランスに留意し、聴き手を意識したアンサンブルを工夫する。	・実技テスト ・相互批評	○	○	○
#	ベル	・基本的な持ち方を会得する。 ・自分の役目を理解し、グループでの役割を理解する。	4	・ベルの操作方法を学習する。 ・自分の担当する箇所を理解する。 ・グループで演奏する方法を学習する。	・実技テスト ・観察	○	○	○
1 ・ 2 ・ 3	ボディパーカッション	・リズムの働きを深く理解し、音色や表現の工夫をする。 ・グループの中の役割を理解する。	8	・体を楽器とすることを学習する。 ・表現を理解して、どの部分を使って奏するか探求する。	・進行表（チェック表） ・観察	○		○
		・創造的で独創的な表現を工夫する。		・自分の担当する箇所を理解する。 ・グループで演奏する方法を学習する。 ・プロの演奏を鑑賞し、活かせるところを見出す。	・グループ演奏会 ・i（兼評価票）	○	○	○
			70					

